

令和6年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	総務部
日 時	令和6年(2024年)4月23日(火) 16:55~17:40
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長 部長、次長、管理監(人材育成担当)、管理監(健康経営・税制・財産活用担当)、総務課長、人事課長、行政経営推進課長、総務事務・厚生課長、財政課長、税政課長、市町振興課長、びわこポートレース局長、行幸啓室長、財政課財産活用推進室長、税政課地方税徴収対策室長

発言者	発言概要
知事公室長	人材育成について、一部の議員からは、若手職員の意見も聞いて議論したいとの声も聞いている。議員との折衝の場は若手職員の研鑽にも繋がるので、そういったこと意見があることも参考にして、心がけてはどうか。
管理監(人材育成担当)	職員研修に議会対応のメニューもあり、活用を促してまいりたい。
知事	中間層が薄い状況は、若手を育てるチャンスでもある。
部長	若い職員を連れて行って経験させることが大事である。
知事	最初はうまくいなくても管理職がフォローすればよい。
総合企画部長	市町に寄り添うのが大事である。市町がどこに相談したらよいかわからない場合も、まずは市町振興課に相談できると安心できる。 今の若い方は福利厚生を重視するとも聞いており、充実した制度が実感できるよう、まずは制度の周知とわかりやすい説明が必要と考える。 ペーパーストックレスも重要と考えており、併せて執務室の動線や机の配置などがコミュニケーションの妨げになっていないかなど、改めて見直すことができればよい。
市町振興課長	市町から見て、県庁で最も垣根の低い課とってもらえるよう努めたい。
知事	「いらっしやいませ市町振興課」を作って欲しい。夏の市町要望までにすべての市町をまわって欲しい。自分自身、知事になって初めて市町を全てまわった。基礎自治体重視で原点に帰ろう。
総務事務・厚生課長	福利厚生を実感してもらうためには、職員のニーズに合わせた福利厚生が大切と考えており、カフェテリアプラン助成も行っているところ。
知事	現在の利用状況はどうか。
総務事務・厚生課長	目標の70%に対して昨年度は61%である。その前の年は48%であり、昨年度は利用が増えている。
行政経営推進課長	ペーパーストックレスについて、県庁は紙で埋もれている所属がまだまだ多く、書棚に長年見えないような書類が残っていたりスペースが有効に活用できていないとの思いがある。ペーパーレス化するのも大事であるが、ため込まないよう整理していき、捨てたり文書庫に引き継いだりすることでスペースを生み出していきたい。生み出されたスペースは動線の確保や机の配置の見直し、さらには、新しい家具を設置するなどしてコミュニケーションスペースを設けることも近い将来に考えていきたい。
大杉副知事	施設整備に際し、資材価格の高騰する中、予算の枠内に無理に収めようとするとう無理が生じて後々取り返しがつかないことにもなりかねない。財政の負担と天秤をかけながら幅広く議論できるような環境づくりができるとよい。 国の予算の獲得について、国の予算の状況をチェックするようなことができないか。
財政課長	予算の枠にこだわりすぎると目的が達成できない施設になってしまう恐れもあるが、ついでの間積算したものがなぜ膨らんだのかについては丁寧な分析が必要である。
行政経営推進課長	国費の獲得は歳入確保という観点もあり、企画調整課とも連携して、庁内に向けて情報をどのように共有して整理していくか考えていきたい。
江島副知事	仕事に対するやりがいには大切であり、やりがいを感じていない職員が何に対してやりがいを感じられないのかを調べながら、データに基づいてやりがいを感じられないものを無くしていくことが大事である。庁舎などのハード面すぐには改善できないが、ソフト面で改善できるのであれば、やりがいを感じられるようにしていきたい。例えば各部署で中堅と若手がプロジェクトチームを作ってプロジェクトを考えてもらうのも一つの方法と感じたので、そこを追求してほしい。 新採研修のあり方についても一定のやりがいに繋がるかもしれないので、工夫してほしい。 財政面では、金利の上昇局面にどのように対応するか、起債の発行時期やロットなど柔軟に考えて研究してほしい。
行政経営推進課長	ペーパーもやりがいを掘り起こしていくものであるが、職員アンケートでも承認欲求を満たされたときにやりがいを感じるという回答が一定数ある。職員をやる気にさせやりがいに導いていくのは管理職の仕事でもあり、例えばコミュニケーションの一つのツールとして1on1ミーティングのようなものを活用しながら、職員1人1人のやりがいを掘り起こしていけるよう、人事課人材育成係とも連携しながら取り組んでまいりたい。

管理監（人材育成担当）	<p>新採研修について、チームで主体的に議論したりすることがチームワークを作っていくのに有意義と考えているが、現状は圧縮したスケジュールの中での実施となっており、知恵を絞って考えてまいりたい。</p>
財政課長	<p>金利については、昨年度発行したサステナビリティリンクボンドが市場公募債を下回る金利で調達できたという実績もあり、そういったことにも取り組んでまいりたい。また、地財措置をしっかりと講じていただけるよう国に求めてまいりたい。</p>
財産活用推進室長	<p>税外未収金残高はこれまでほぼ一貫して右肩上がりであったが、昨年度、外部委託や専門徴収などの取組もあり、令和5年度決算では残高が減少する見込み。年度当初に職員から課題を聞いていると、徴収できない債権が大量に溜まっている状況があり、資源も人も限られた中で集中して取り組むためには、長期滞納債権の整理を条例制定も含め取り組みたいとの前向きな意見があった。こういう前向きな職員に対し組織としてしっかりと応援していきたい。令和6年度は、まずその足場を固め、7年度には条例化に向けてしっかりと取り組ませてもらいたい。</p>
地方税徴収対策室長	<p>県税の滞納額の縮減について、滞納額全体のうち80%以上が市町が賦課徴収を行う個人県民税となっていることから、昨年度、全市町を訪問し議論を交わしてきたところ。各市町の課題にしっかりと向き合い市町をサポートする形で、市町の徴収事務の改善に取り組んでまいりたい。</p>
管理監（健康経営・税制・財産活用担当）	<p>交通税に関して、まずは県民の皆さんに議論していただけるような環境を作る中で、県民の皆さんに納得いただき認められるようなプランにしていくことが大事と考えており、そのためにしっかりと土木交通部とも連携し進めてまいりたい。また、県民の皆さんや色々な方を巻き込んでいくことで、適切なプロセスをデザインし、世の中と上手にコミュニケーションをとっていくということに気を付けながら取り組んでまいりたい。</p>
次長	<p>滋賀県は人口類似県の中で奈良県、石川県に次いで職員数が少なく、能登半島地震と同様の災害が起こった場合、滋賀県も石川県と同じ状況に陥るのではないかと危機感を持っている。</p> <p>近年増員はしているが、まだ職員数は少ない。精神疾患のために長期療養する職員数は昨年度80人で過去最高を更新している。国スポ・障スポを控え、あと1年半が一番しんどい時期ではあるが、休んだ職員の代替をしっかりと確保するなど職場の声に耳を傾け、具体的に負担軽減に繋がる業務の見直しを真剣に考えていきたい。</p> <p>また、職員のモチベーションについて、例えば、先週末に給与が支給され、多くの職員は給与が間違いなく支給されて当たり前だと思っているが、人事異動後最初の給与を支給するまでには膨大な手間と労力がかかっている。あるいは、審議会などを主催する担当課が労われることはあるが、開催にあたっての経費や委員への謝金の支払いなどは総務事務・厚生課が手続きを行っている。地味だが誰かがやらなければならない大事な下支えの仕事に従事する職員のモチベーションを維持しつつ、時間をかけて将来の柱に育てることをしっかりと考えていきたい。</p>
知事	<p>大事な仕事をしている職員のモチベーションを上げていくことがやりがいにも繋がる。そういう視点で、幹部職員が、特に知事がより色々なことを言っているように工夫したい。</p> <p>総務部は、財源・人材・空間のやりくりをする部であるが、空間について、オフィス環境、本庁舎を含めた庁舎の利活用をキックオフして本格的に進めていきたい。</p> <p>やりがいについて、1on1ミーティングをやるのは良いが、かえって逆効果にならないようにしたいと思う。</p> <p>債権回収や税の滞納対策について、とても大事なことであるが、例えば福祉と結び付けたり、市町と連携することで支援に繋げるなど、総合行政なので、「愛」のある形でやれると良い。</p> <p>メンタル不調の職員が増えていることは憂慮しているが、不調にならないように言い過ぎると不調になった職員が申し訳なく感じることもある。誰でも不調に陥ることはあるというメッセージやりか barrier がうまく考えられないものか。</p> <p>業務の見直しは、今年度の重要課題であり、新たな行政需要に人や財源をシフトするためにも、頑張ってやりたいと思う。</p> <p>税については既存の税の見直しと交通税をお願いする。</p> <p>市や町に徹底的に寄り添う滋賀県庁を作ろうとジョブディスクリプションでも伝えている。そのような視点に立って、この夏の要望の拝受までにどのような取り組みができるのか。</p> <p>県がポートレースを主催するのは滋賀県だけでなく、一般財源の繰出金もありがたいが、財政貢献だけではない「県ならではの」取組を一緒に作っていききたい。依存症対策も始めてくれているが、生活破綻等があるのであれば、常にそういったことに思いを致しながら、このポートレース場の活性化を考えていきたい。</p> <p>いよいよ行幸啓が行われるが、せっかくの機会であり大事に準備していきたい。宮内庁との調整においては、時代の変化に応じたご提案をする姿勢で臨むのがよいのではないかとと思う。</p>